

山下 玄介さん
Gensuke Yamashitai

〔甲佐町くらし安全推進室〕

ヤマシタ ゲンスケ / 甲佐町くらし安全推進室長。元熊本県警職員。熊本地震では、熊本県警察署にて、管内の災害対応に尽力した。

甲佐町の暮らしを守る 防犯防災のエキスパート

甲佐町くらし安全推進室長として今年4月1日に着任した山下室長。熊本県警に38年間勤務し、着任前は天草警察署長として地域住民の日常の安全と安心を守ってきた。

就任後、本町に対して「みなさん交通マナーが良く、ゆづり合いの運転がなされている町」という印象を抱いたそうである。

山下室長の任務は、住民の

防災、防犯、交通安全の意識を高めるとともに住民の安全な暮らしを守ること。山下室長の着任後、地域の安全意識向上に向けた活動は着実に進行している。

新学期を迎えた小学校では、自転車での交通マナーについての授業に、地震の被害が大きかった地域の学校では、地震を想定した防災意識

を高める授業に参加した。

防犯の面では、お年寄りの被害が多い「電話でお金詐欺」の被害を防ぐため啓発活動を展開していくつもり。高齢者を狙った詐欺で、警察に被害届が出されるのは氷山の一角と言われている。「年々巧妙な手口に変化している詐欺。

電話でお金が出たら、まず疑わなければいけません。けれど、「まさか自分が」と思い、電話口の犯人を信用してしまいます」。災害や犯罪から身を守るための講話は今後、地域の老人会などで地元警察や防災士と共に行なっていくこととしている。

熊本地震の際に、被害の大きかった地域の災害対策を担当していた山下室長は、「線状降水帯」という言葉が一番嫌い」と言う。

緑川が流れ、町中に用水路が巡っている本町に対しては、雨の多くなる季節を前に特に注意を呼びかけていく予定だ。

「防災用語に自助・共助・公助とありますが、重要なのは自助。これから地域を回り、

自分で身の安全を守るこの大切さについて、経験を踏まえてお伝えしていきたいと思っています」と話す。

また、「水害は、地震とは異なり天気予報などである程度予測が立てられます。万が一に備え、自らを守る意識を持っておくことが大事です。飲み水、懐中電灯などの非常持ち出し品のほか、避難場所や避難経路を今一度しっかり確認しておくことが大切です」と災害への備えの大切さを訴える。

さらに「お年寄りだけで暮らす世帯が多い地域では近所の方々と共に助け合う『共助』の働きも重要。もしものとき、どんな助けを必要とするのか、どこに避難するかなど家族で話し合っておくのはもちろん、日ごろから地域の方々とコミュニケーションを取っておくことも大切です」と自主防災組織の重要性も強調する。

日ごろは穏やかな表情を見せる山下室長。防犯防災のエキスパートとしての本領発揮はこれからだ。